

[原著論文]

ボランティアが持つ情報の有用性の検討

—東日本大震災での支援活動を通して得た教訓—

浦部大策

聖マリア病院国際事業部

要旨

災害後の被災地医療支援では、被災地にどんな医療需要が発生しているのか、被災地の状況を把握した上で支援活動を構築するのが望ましいが、混乱した中で情報を集めるのは容易ではない。しかし、災害という漠然とした対象に論理的に取り組むには、被災地内部から情報を集め、対象を客観的に把握して取り組む事が重要である。

そこで、混迷している被災地の中でも利用できる重要な情報源として、我々は医療ボランティアの診療録に蓄積された情報に注目した。東日本大震災で被災地支援のボランティア活動を実施した際に、診療録情報を通して被災地の医療に関してどのような情報を得る事が可能かをチェックしたところ、地域住民の受療動向の把握、また感染症動向の把握においても、被災地の医療状況を数的に把握する上で非常に重要な情報を得る事ができた。

被災地支援活動においては、目に見えぬ被災地の姿を客観化、可視化して取り組む事が重要である。その上ではボランティアの情報は非常に有用であり、積極的に利用すべきである。

キーワード；サーベイランス、医療ボランティア、災害医療支援、感染症対策

連絡先；浦部大策

所属；聖マリア病院 国際事業部

住所；〒830 - 8543 福岡県久留米市津福本町 422 聖マリア病院 国際事業部

電話；0942 - 35 - 3322

E-mail；urabe@st-mary-med.or.jp